

第 15 回 大橋川改修事業に係る環境モニタリング協議会 議事録

1. 日 時 令和4年2月21日(月) 14:00～16:00
 2. 場 所 くにびきメッセ-島根県立産業交流会館-
 3. 出席者
 4. 議事録

議事	委員からの質問・指摘・質問	事務局回答・対応方針
1. 「大橋川改修事業に係る環境モニタリング協議会」規約		
2. 広域モニタリング・環境監視について	(國井委員質問) ・塩分の自動観測値にある参考値は、何を意味するのか。	(事務局回答) ・月の半分以上の日数が欠測となっている場合、その月の値を参考値として扱っている。
	(國井委員質問) ・外潮位と宍道湖水位の関係性を整理したグラフについて、なぜ、過去10年間のデータを対象としたのか。 ・また、相関傾向が見られたとした根拠は何か。	(事務局回答) ・解析は、外潮位が上昇傾向にある直近10年間を対象とした。 ・スピアマンの順位相関により有意な相関関係が認められたため、当該資料の記載とした。
	(道上委員長質問) ・外潮位と宍道湖水位のグラフでは、5月、8月、10月、11月には矢印が記されていないが、これらの月では相関傾向が見られなかったということか。	(事務局回答) ・統計解析により有意な差が見られなかったため、相関傾向を示す矢印を記載していない。
	(北村委員質問) ・地下水位調査地点である No. 9, No. 10 についても、他地点と同様に美保関潮位と連動した傾向を示したか。	(事務局回答) ・データを確認し、後日報告する。

議事	委員からの質問・指摘・質問	事務局回答・対応方針
2. 広域モニタリング・環境監視について	<p>(中村委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査結果を見ると、マハゼは水深が深い場所を遡上しているという結論になるが、貧酸素水塊が深場に存在する場合は、マハゼは浅場を遡上するものと考えられる。 データの考察については、委員に意見を求めても良いと思う。 	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> 承知した。
	<p>(中村委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> マハゼ稚魚の遡上調査は、10年近く継続して実施しており、遡上する時期や遡上経路について明らかになってきた。 遡上調査をこのまま続けるのか、別のやり方にするのか、今後の委員会で検討するとよいと思える。 <p>(道上委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の調査のあり方については、事務局の方で検討すること。 	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の調査について検討する。
3. 工事モニタリングについて	<p>(道上委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> モニタリング終了箇所を対象に行う概略調査については、この流れでよいと思う。 次回の協議会では概略調査の対象や実施内容等について一覧表で整理してほしい。 	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> 承知した。
	<p>(國井委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> モニタリングは長期間行うのがよいが、公共事業となると長期間のモニタリングは難しい状況であった。 しかし、ドローン技術の発展により、概略的な調査であれば、低コストで実施可能となった。 今回提案された概略調査については期待している。 	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> 承知した。
	<p>(倉田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 移植したオオクグは元々河川に生育していた個体であり、中海沿岸部は元々の生育環境ではない。そのため、今後大きな高潮等が発生した場合、移植個体が全滅するおそれもあると考える。 リスク分散の観点から、元々の生育環境である大橋川内にも移植地を設定したほうがよいと考える。 	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後のオオクグの移植先について検討する。

議事	委員からの質問・指摘・質問	事務局回答・対応方針
3. 工事モニタリングについて	<p>(中村委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 概略調査について空中ドローンの利用はよいと思うが、水中ドローンは水深の浅い移植地では水が濁ってしまい、移植個体の確認精度が低下するため、潜水土による潜水目視を行ったほうがよいと考える。 	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> 概略調査における水中ドローンの活用については、潜水調査と水中ドローンでの調査を同時期に実施する等、調査精度の確認しながらコストのかからない方法を検討していく。
	<p>(國井委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大橋川河口左岸部の寄り州は、当初計画では保全されとの認識であった。 今後について、河川整備に伴い当該寄り州は消失する可能性はあるのか。ここはオオクグの生育地として重要な場所と考えている。 <p>(道上委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該箇所扱いについては、事務局のほうで改めて検討すること。 	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期的には、大橋川河口左岸部の寄り州を改変する可能性はある。